

令和7年度 小学校国語科研究部会研究構想

岐阜県小学校国語科研究部会の立場・役割

小学校国語科研究部会は、言語の教育を行う立場を一層重視し、県内の国語科学習について以下の点について研究の方向を示す。

- ・国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てること
- ・日常生活で生きてはたらき、各教科の学習の基盤ともなる言語能力を高めていくこと

国語科の今日的課題

生成 AI を含めたデジタルの進展は、児童の効果的・効率的な課題解決を支援する新たな学び方をもたらし、個別最適な学び、協働的な学びの質を高める実践事例もみられてきた。

しかし言語の教育を行う立場として見たときに、効果的・効率的な学びができる反面、児童の言葉の意味や使い方等に対して情緒的または論理的に思考する機会を失い、言葉への思慮深さがなくなっていることが課題といえる。

成果と課題

〈令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から〉

- 人物像、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできている。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことはできている。
- 文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

研究テーマ

生きてはたらく言語能力を高める国語科学習

研究視点

(1) 単元について	(2) 単位時間の学習過程について
①言語能力を育成するための教材（題材）の特質を生かした言語活動の設定 ②教科等横断的な側面と国語の学びをつなぐ単元構成	①児童が単位時間の見通しをもつことができる導入の工夫 ②対話（テキスト、他者など）を通して考え続けるための指導・援助の工夫 ③児童が、言語に対する自己の学習過程を振り返るための手立ての在り方

【研究視点に対する構え】

研究の視点を全て網羅することが目的ではない。国語科研究部会員が、市町村、または個人としてどれかにフォーカスを当てて取り組む。そこで得た実践事例や成果と課題を、県の研究部で集約して、多様な方法（県大会、群市教研、ホームページ等）で全体に発信、共有を図っていく。このように研究テーマ「生きてはたらく言語能力を高める国語科学習」の具現を国語科研究部会部員一体で目指す。